

課題 5 竹を利用したシカ害対策について

(開発期間：平成27年度～平成29年度)

1 試験開発目的

シカ被害対策は、低コスト再造林体系の確立に喫緊の課題となっており、当センターにおいても、頂芽を保護するシカ食害防止クリップ(ドイツ製)の検証を実施していますが、側枝の被害やクリップによるストレスの可能性等課題もあるところです。

その対応策として、地域から有効利用が期待され、かつ軽量で有機物であることから撤去が不要な「竹」を利用した、苗木保護柵がシカ被害に有効であるか検証します。

2 試験地(栃谷山)

高知県安芸郡北川村栃谷山国有林 2079 林班い小班
(安芸署管内)



↑ 竹の各位別 ↓ リンロンテープ

3 試験内容(栃谷山)

囲い柵は、モウソウチク・メダケを利用して、1.5m程度の竹の幹部・枝付き部を4～6本組み合わせた柵を植栽木の周囲に設置します。

併せて、剥皮防止に効果があり生分解性のリンロンテープを、囲い柵に巻き付けるなどした、様々なタイプの食害防止柵の内、シカ被害に有効なタイプを検証します。



試験地近景



タイプ別設置柵等

4 平成27年度検証まとめ(栃谷山)

一年間検証した結果、全てのタイプにおいて被害を受けたにも関わらず、各検証結果からは「竹とリンロンテープ巻き」タイプが、竹のみ・無処理に比べて被害度が低く、その後の回復率及び生長量(樹高等)についても良い結果となりました。

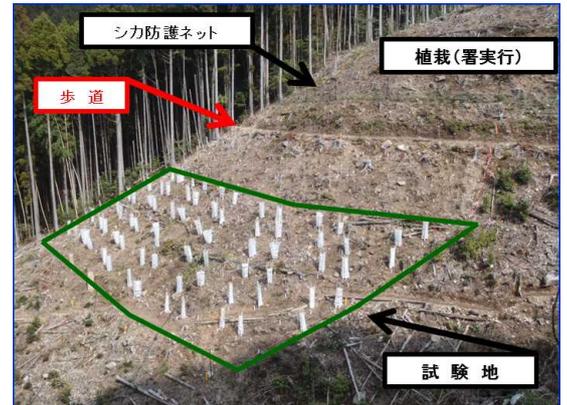
このため、新たな試験地(コビ穴山)への設置は、「竹とリンロンテープ巻き」タイプとし、支柱については、運搬・施工性・資材確保等を考慮して割竹を採用することとします。

5 試験地（コビ穴山）

高知県高岡郡四万十町大正コビ穴山国有林 4083
林班と小班（四万十署管内）

6 試験地内容(コビ穴山)

平成 28 年 3 月にヒノキ（普通苗）・スギ（コンテナ苗）各 54 本の計 108 本を植栽し、同時に割竹 4～6 本を組み合わせた柵それぞれにリンロンテープを隙間なく巻きつけた苗木保護柵を設置。



7 これまでの課題(コビ穴山)

栃谷山の結果を踏まえ、保護柵に隙間ができないようリンロンテープを入念に巻きつけ、支柱も十分打ち込んだにも関わらず、テープの幅が狭いため、風等によりテープがずれ隙間が生じました。

また、隙間ができたリンロンテープの補修に相当の時間を要しました。

8 今後の予定

- 支柱用の割竹価格の検討。また、設置が簡単にできるリンロンテープに変わる筒（袋）状のタイプの製品開発を検討しています。
- 2カ所の試験地被害調査（毎月1回程度）、成長調査（年1回）を実施します。